

要介護認定申請者の口腔内の実態と要介護者への義歯治療の効果について

佐藤隆¹⁾、河野正司²⁾、野村修一²⁾、豊里晃²⁾、伊藤加代子²⁾、田巻元子²⁾、大内章嗣²⁾
(社)新潟県歯科医師会¹⁾、新潟大学大学院医歯学総合研究科²⁾

【目的】

要介護者にとって「口から食べること」は最大の楽しみの一つである。しかし、義歯の適合状態不良のため満足に食事を摂取することができていないという声も多く聞かれる。現状では要介護者への適切な対応はまだ十分普及しておらず、関係者の知識・連携不足などが原因であると指摘されている。よって、厚生労働省科学研究費補助金による「情報ネットワークを活用した行政・歯科医療機関・病院等の連携による要介護者口腔保健医療ケアシステムの開発に関する研究（H14-長寿-013）」の一環として、まず要介護者の口腔に関する実態調査を行った。その実態調査の結果を踏まえて、義歯治療の必要があると診断された 21 名について、治療を行いその前後での栄養摂取状態や QOL、ADL などを比較したので報告する。

【方法】

1. 実態調査

対象は、新潟県内に設定したモデル地区在住で、2002 年 10 月から 12 月の間に介護認定申請をした者のうち、本調査について同意の得られた 372 名（男性 140 名、女性 232 名、平均年齢 81.0 ± 8.0 歳）とした。その対象者に対して、介護認定診査のための訪問実態調査に歯科医師が同行し、歯科受診状況・口腔清掃状況などに関する聞き取り調査と口腔内診査を行った。

2. 義歯治療

1 の実態調査の結果、義歯治療が必要であり、アイヒナーの分類が B3～C3 に属している 21 名を対象とした。まず義歯治療前に口腔状態、全身状態、ガムによる食品粉碎力検査、栄養摂取量、QOL、ADL、義歯に対する満足度についての調査を行った。栄養摂取量の調査方法だが、まず、使用食材判定のため、ポラロイドカメラにて食前の食膳を撮影した。この際、スケールも同時に撮影し、撮影距離によるサイズの誤差調整に用いた。献立の記録も行い、栄養士に依頼して使用食材の種類を推定した。また、実際の食事摂取量は、食前と食後の食膳を比較することより推定した。その後新潟市歯科医師会、北蒲原郡・豊栄市歯科医師会会員の歯科医師に依頼して義歯治療を行った。義歯治療が終了した直後および治療終了 2 ヶ月後に、治療前と同様の検査を行い、その結果を比較した。